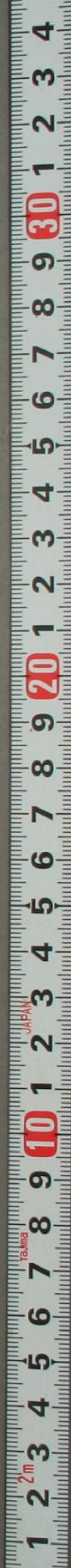




东山殿御饰書

相河孫記  
全

伊地知文庫  
文庫20  
430



御飾書

伊地知氏書冊

相阿弥記



一 西の庄茶湯乃万石小一間寺柳寺並物小河庄平のと同庄際  
 里古松山水夏陸やうをり帯の庄平庄覆平よるを松山  
 水又形寺納々遠柳寺寺並物か内東ひよる庄の庄中平庄  
 寺並物か内南八系乃間乾南寺遠柳の上よ寺現堂庄本  
 次の新よ塩寄まきま塩の物とる西四面粉作の万良  
 の南庄つ柳並物小川庄平と同庄現文庄平庄平鹽庄平  
 西の六万小東乃石に基盤將基盤をうし登の庄中庄の  
 西の庄平和尚柳人形寺並物か内西二万の庄茶湯あ  
 る電浪水指水懸胡洞の庄茶碗の物寺建寺の庄



茶杵をうしろ下のまに食はぬ

二 具足の香合カウゴは香をみきれ斗入へて香炉乃香合は  
名香を包み入へて敷ふ定

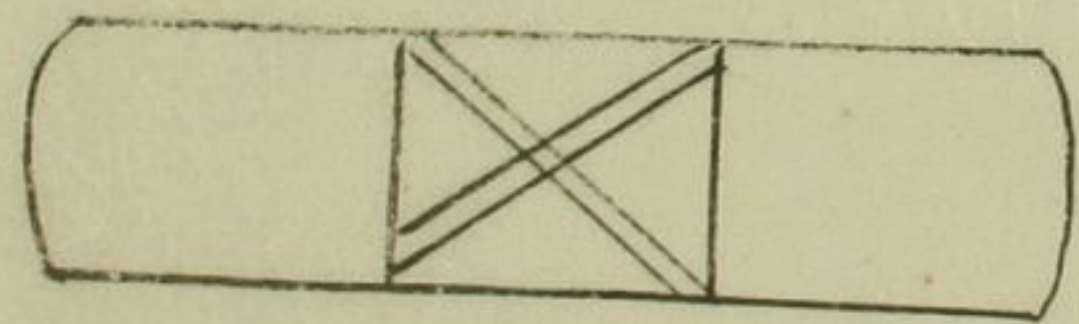
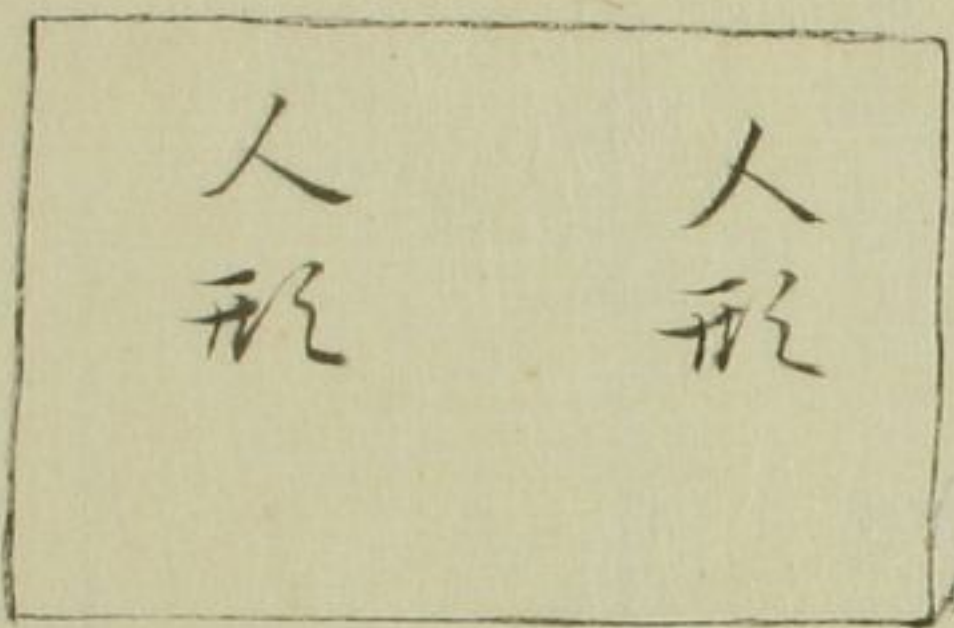
中央卓ウツマは縁より中へのけて置へ

香炉は四幅一對は置へ

三 具足は胡洞コウツウして香匙キヤウジの基より茶碗の物モノして置く

茶碗

一 茶の湯のかくれが茶碗の物モノ置く



席の対人形タテヒトガタむすへ

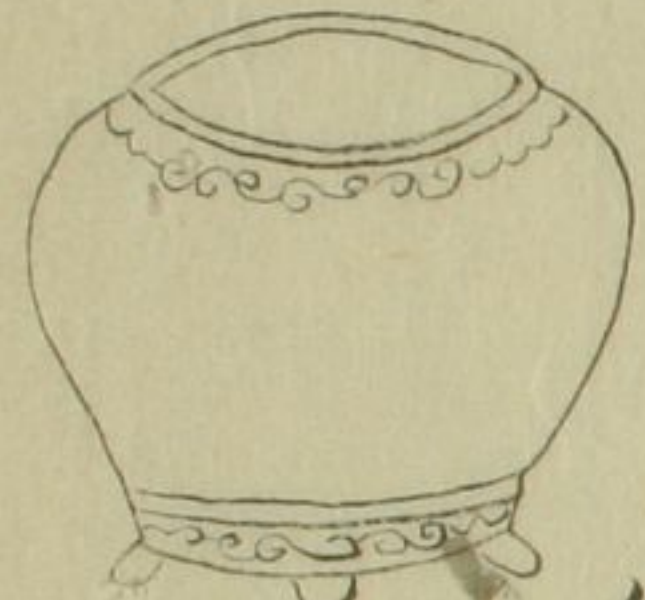


軸乃柄の身もむき時かやうの結核の方益々記也かたはこく  
 空へしそ人のあへかた時とやうりは尚あり



人乃あへかた時花の中を人の方へ  
 むらびへし考合とそ介人形花を  
 も是の方を人の方へ向はへし人  
 返す時と回す

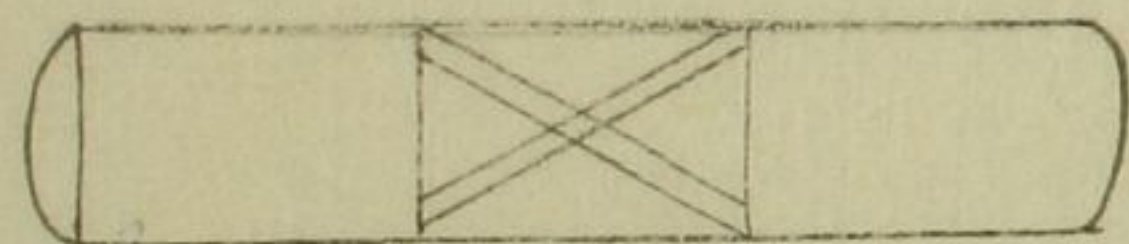
香櫃



人はあへ  
 けはあへ  
 むらへ



香刀柄と上へし管荷並あり又柄と  
 下へあへてもくろくかすす時宜し

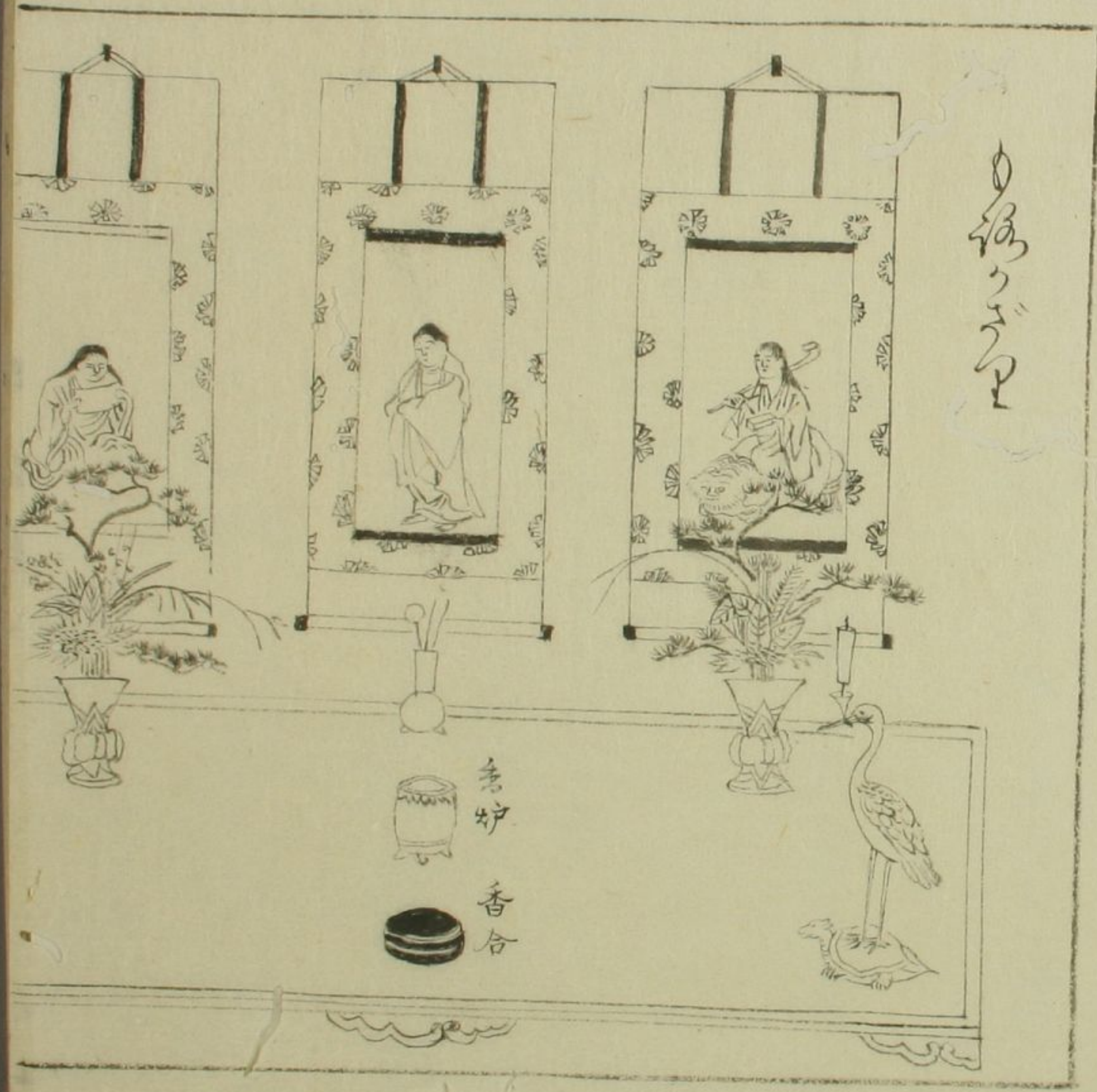


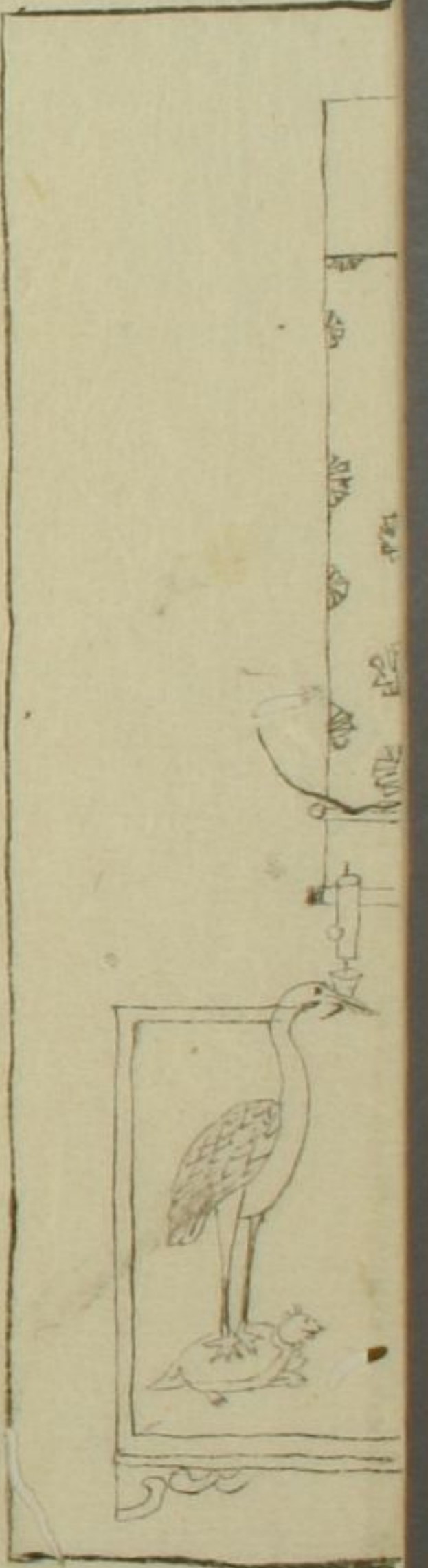
全瀾返子の類  
 まきつゝは時の  
 本よへを上の  
 時もはあ也  
 もよへし又六尺也  
 其のよへし

口人乃方へる也

- 一 釣香燈まつり香炉何事も所入へ〜所入在伏志うへ〜
- 一 佛中灰も園香炉よ入へ〜
- 一 鏡一幅かけて二具足並よのふ若二幅一對掛て二具足並よ
- 一 只六控へ〜其は何も略也
- 一 おり卓鏡乃すけ共ハ折ても並へ〜
- 一 書院乃飾ハ七門くまりともあり
- 一 書院乃飾やう一番は硯屏二番は硯を並えあひのすどと里
- 一 て筆箱を並次は水入次は油次は卦算次は水籠いすも
- 一 並横をよ押板の中よ〜硯屏並りあへ〜

の海うま





この陣の客人ふとよひうすりひいせと 法成の時ハ勿論也  
 いろも常盤のり也此ハ又一對花籠脇よをうすへ  
 一 柳並時ハ巾の端ありとも茶籠ハ用て吉  
 一 書院ハ喚鐘ふきハ略あり  
 一 飾ハ四季よかえ侍事あり  
 一 二幅一對の時中ハ花籠控へへ 順書好絵のふよ一ツ宛並し  
 一 其附ハ巾ハ花籠ありふし  
 一 絃かくふは身ハ右書院ハ右次ハ右四幅一對の内ハ左より

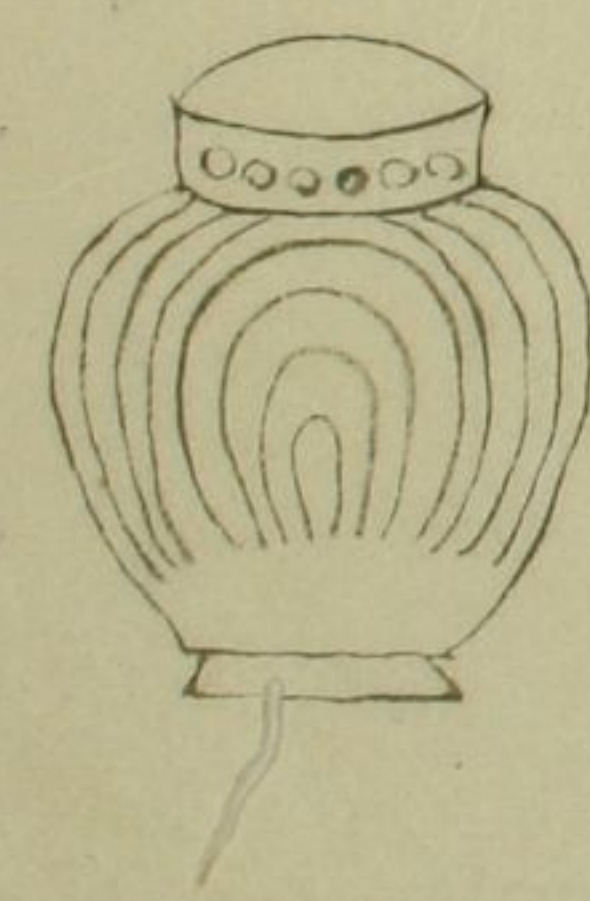
初て一二三四とかくも也

一 喚鐘と書院ハ釣く其外ハ巾ハ釣るるありハ同右ハも並  
 へき也視屏の大なるをハ書院ハあり外ハ又屏をハ小も並へし  
 申中央ハ三具是のふよ並也

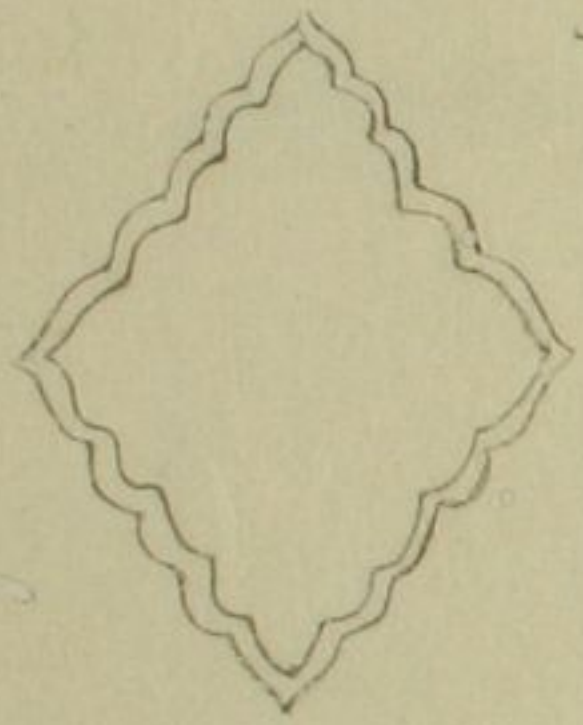
始音花籠



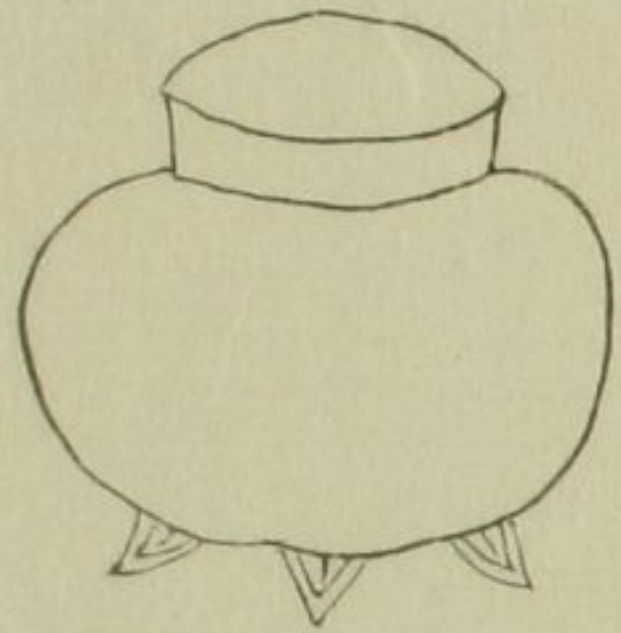
籬茶



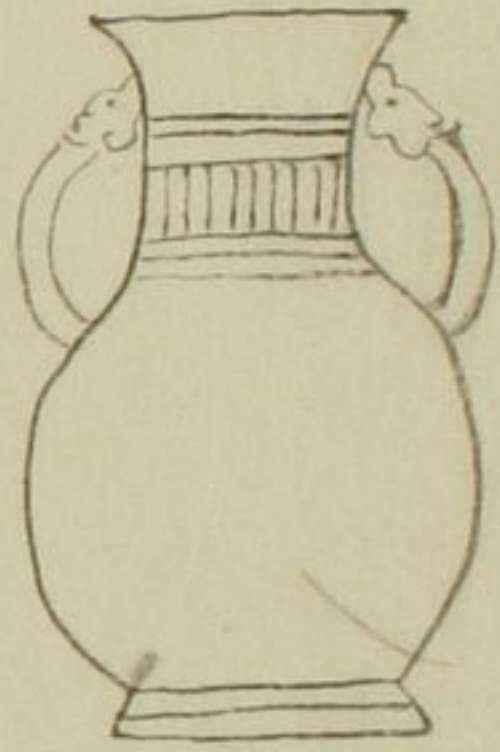
菱香合



耐盆溜



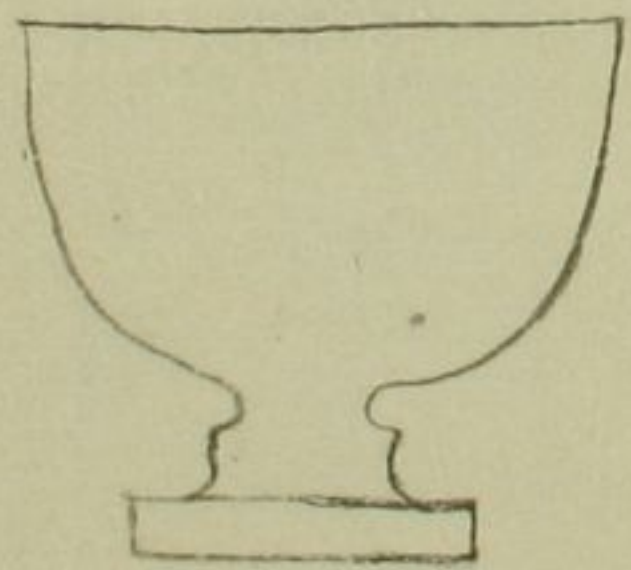
九花瓶



耳口花瓶



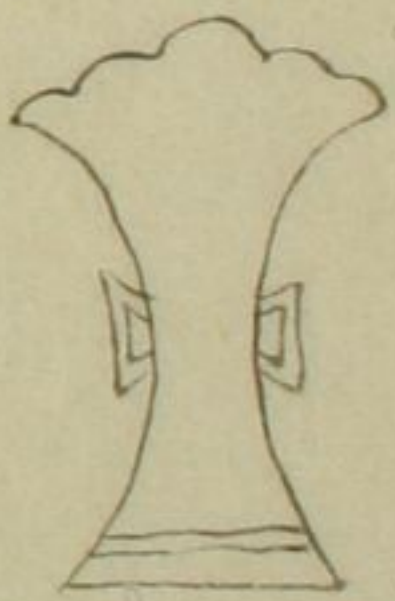
二重香炉



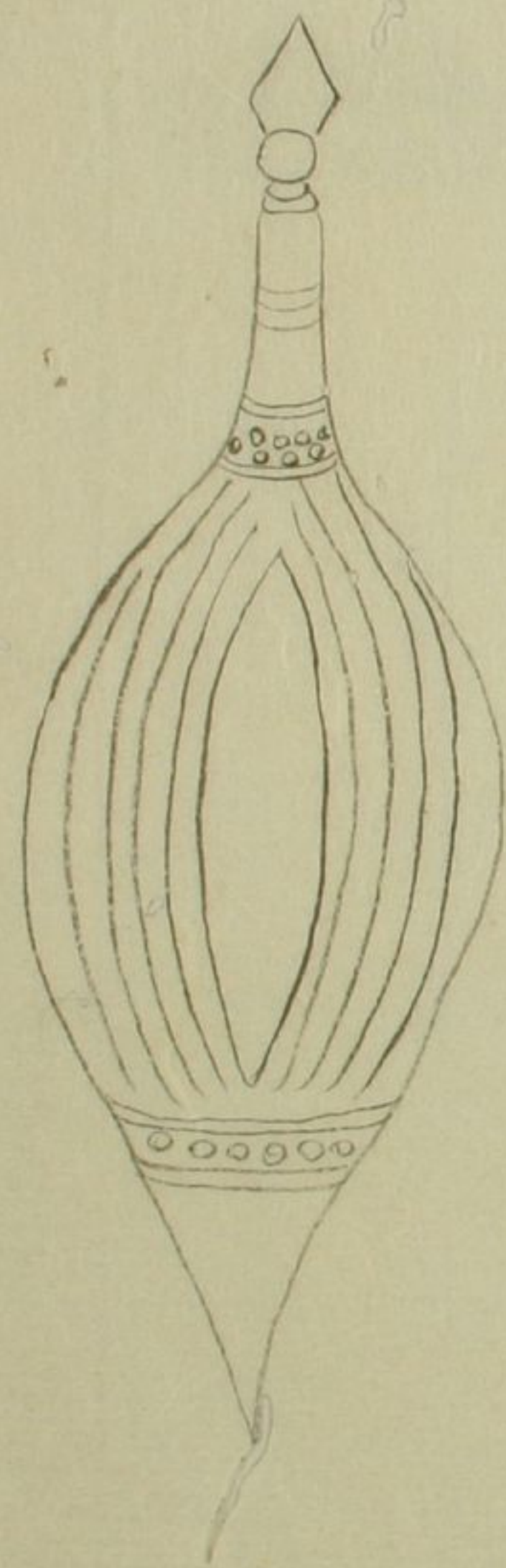
火屋香炉



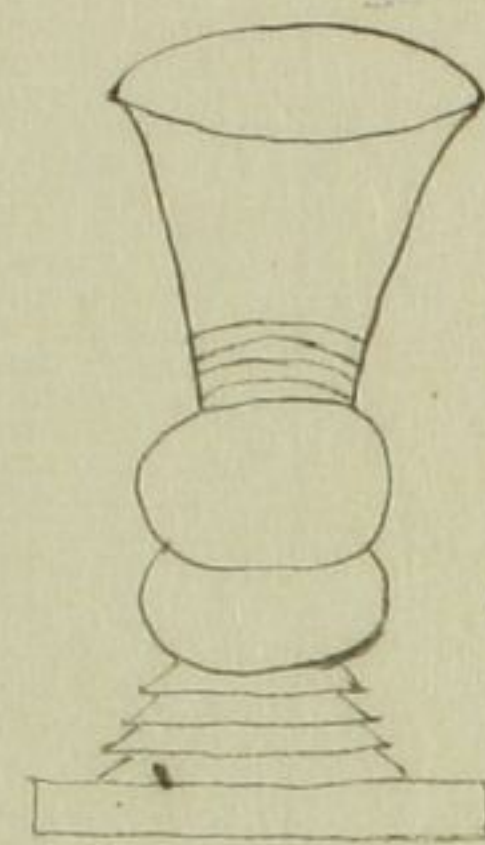
浪吉口花瓶四方也







柱飾 ヒラカサリ



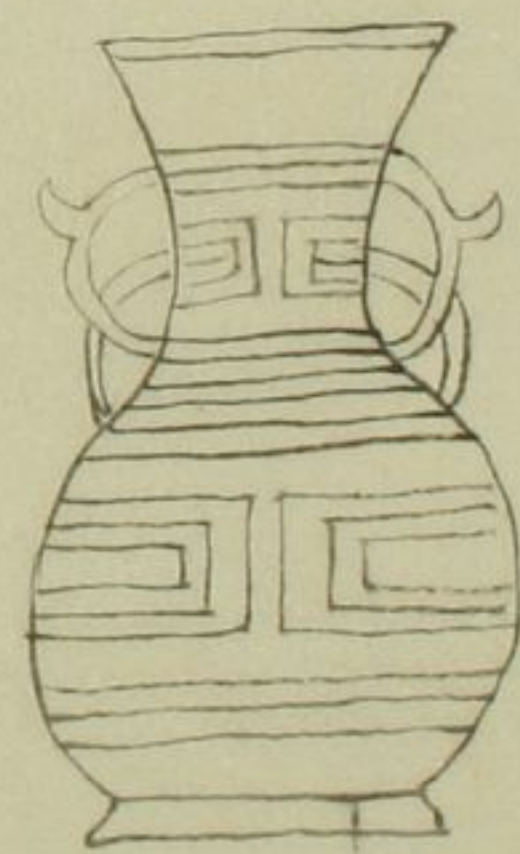
土拍子口二重漏花形 カサ



半桶 ヒナ



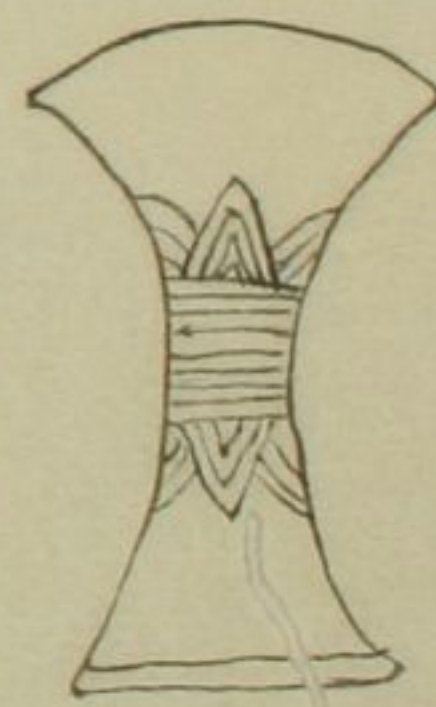
壺花瓶



亀形花瓶

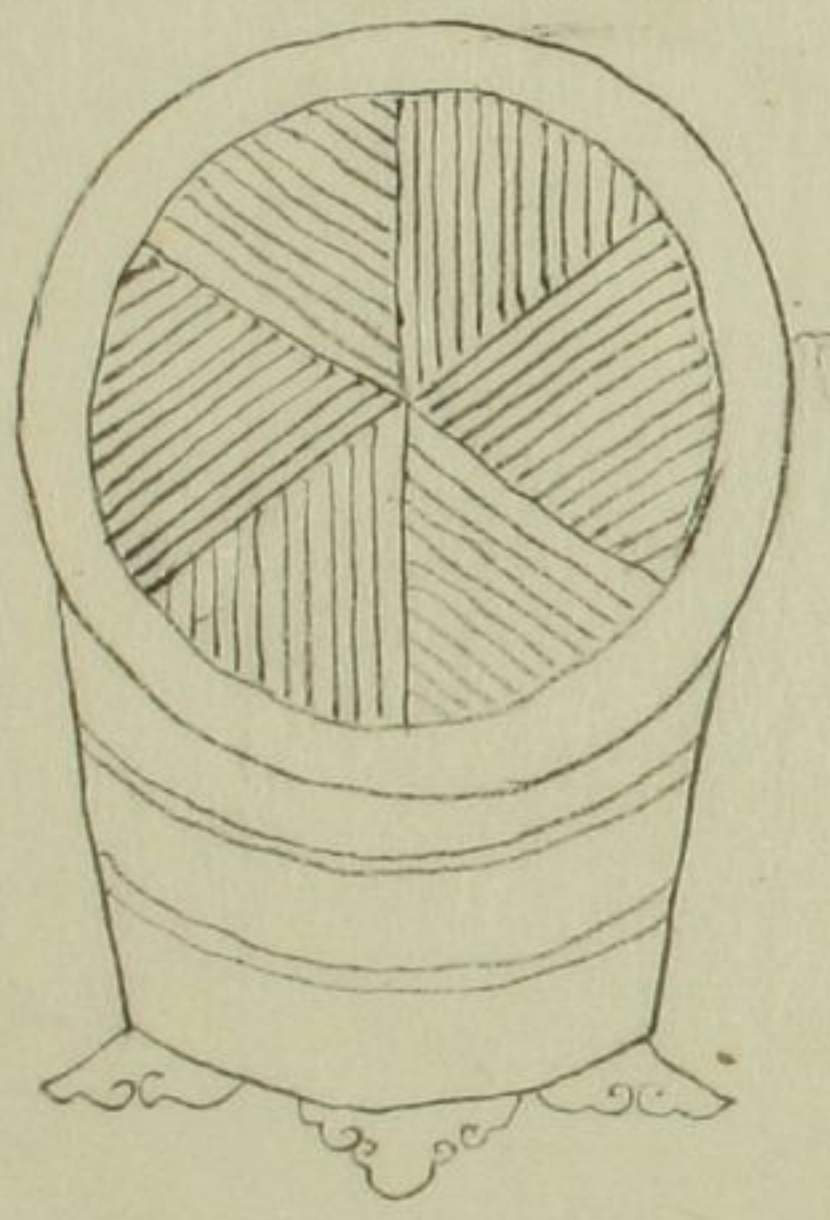


懷桶 ダキ



土拍子口二重漏 カサ

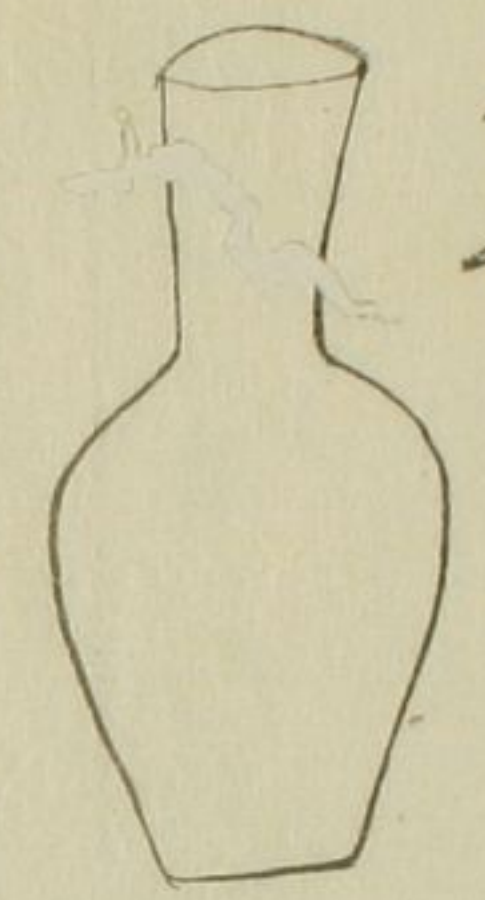
いづれの香爐もかきうの付振盤をハ入るは



面

貞丈云此灰ノオシヤウラ六合ト云

榎花瓶



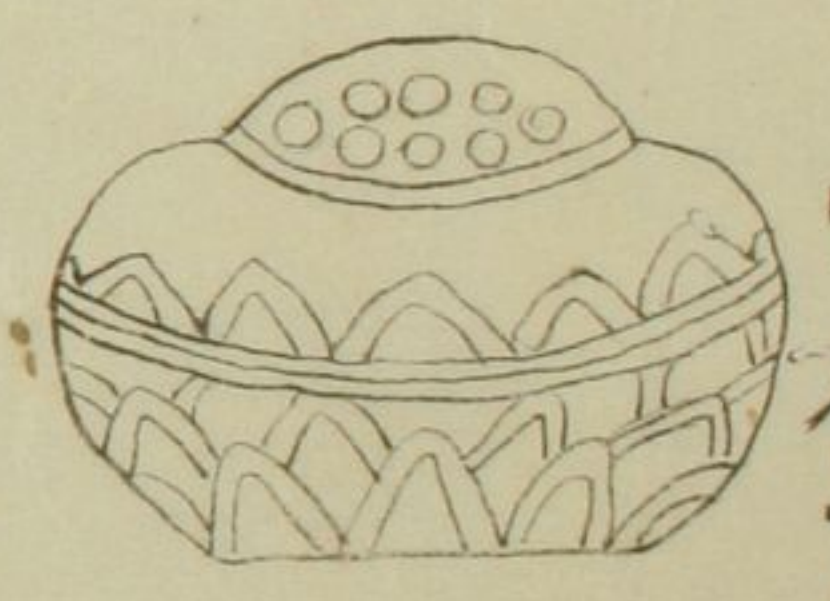
香磁瓶

半桶

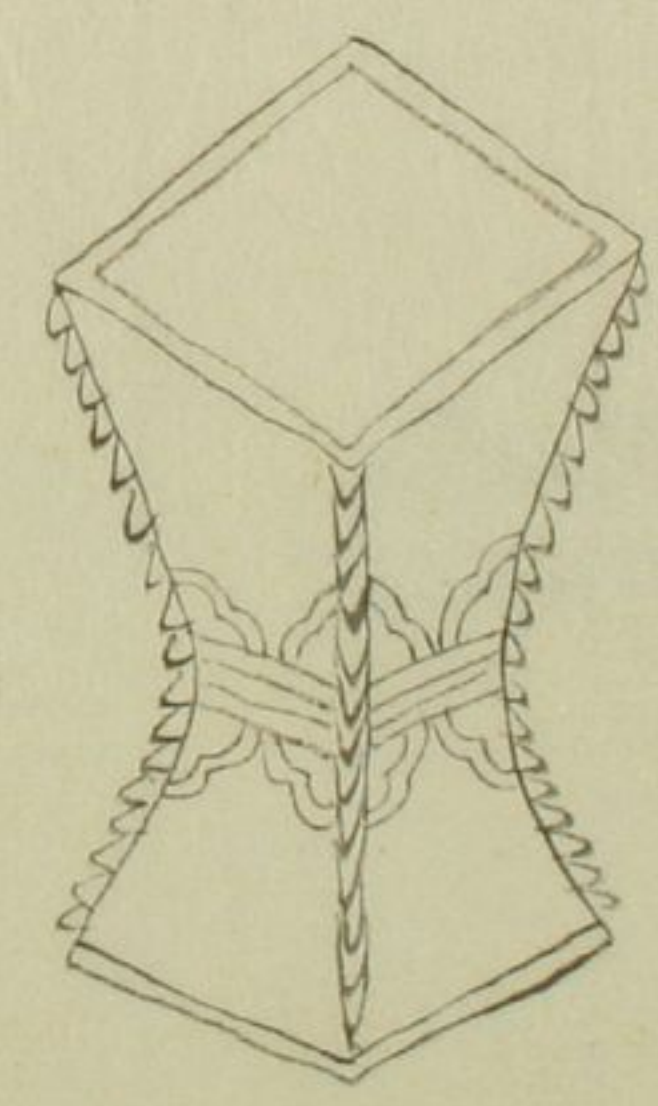


いづれの香爐もかきうの付振盤をハ入るは

花形ノ文下ヨリ上ハ  
カハリタレナリ茶室ハ  
クスリヲ入ルナリ

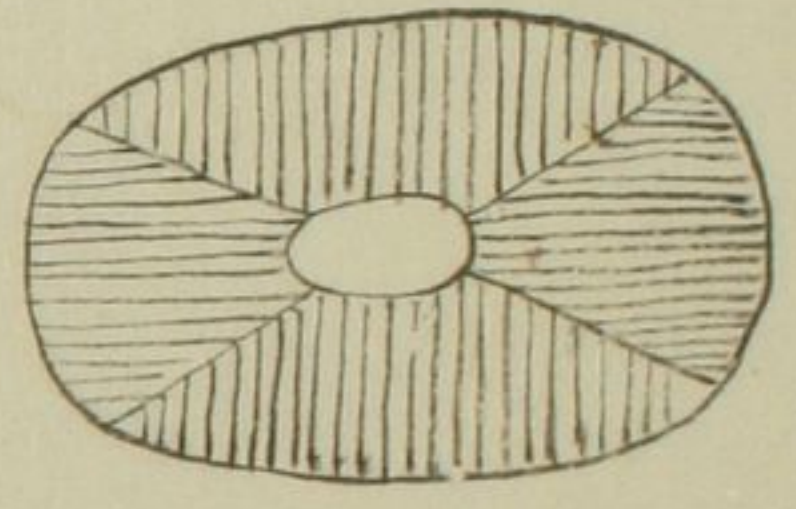


土拍子口四方口



花形ノ文下ヨリ上ハ  
カハリタレナリ茶室ハ  
クスリヲ入ルナリ

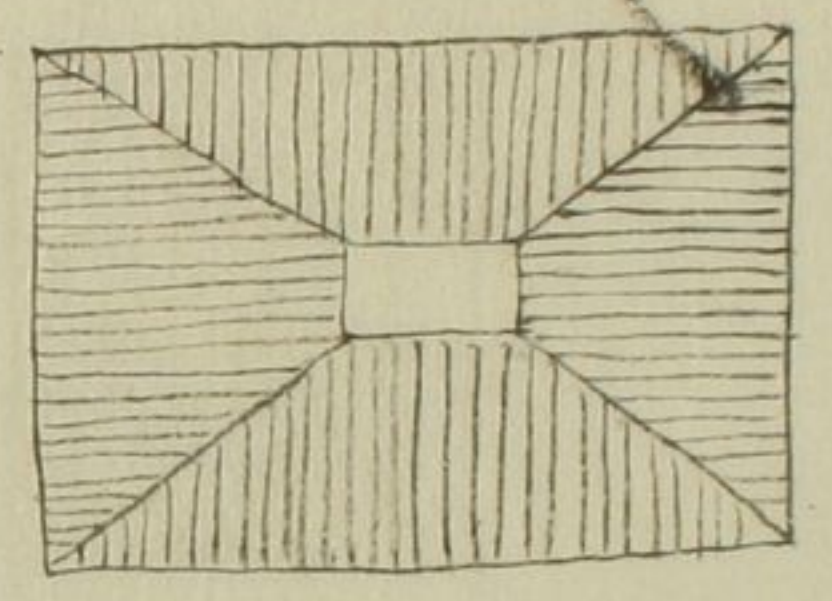
版棧ありの香炉ハあけ四方小灰をお座へ〜



真丈云此三下ノ國王  
灰ノヤウ四合ト云

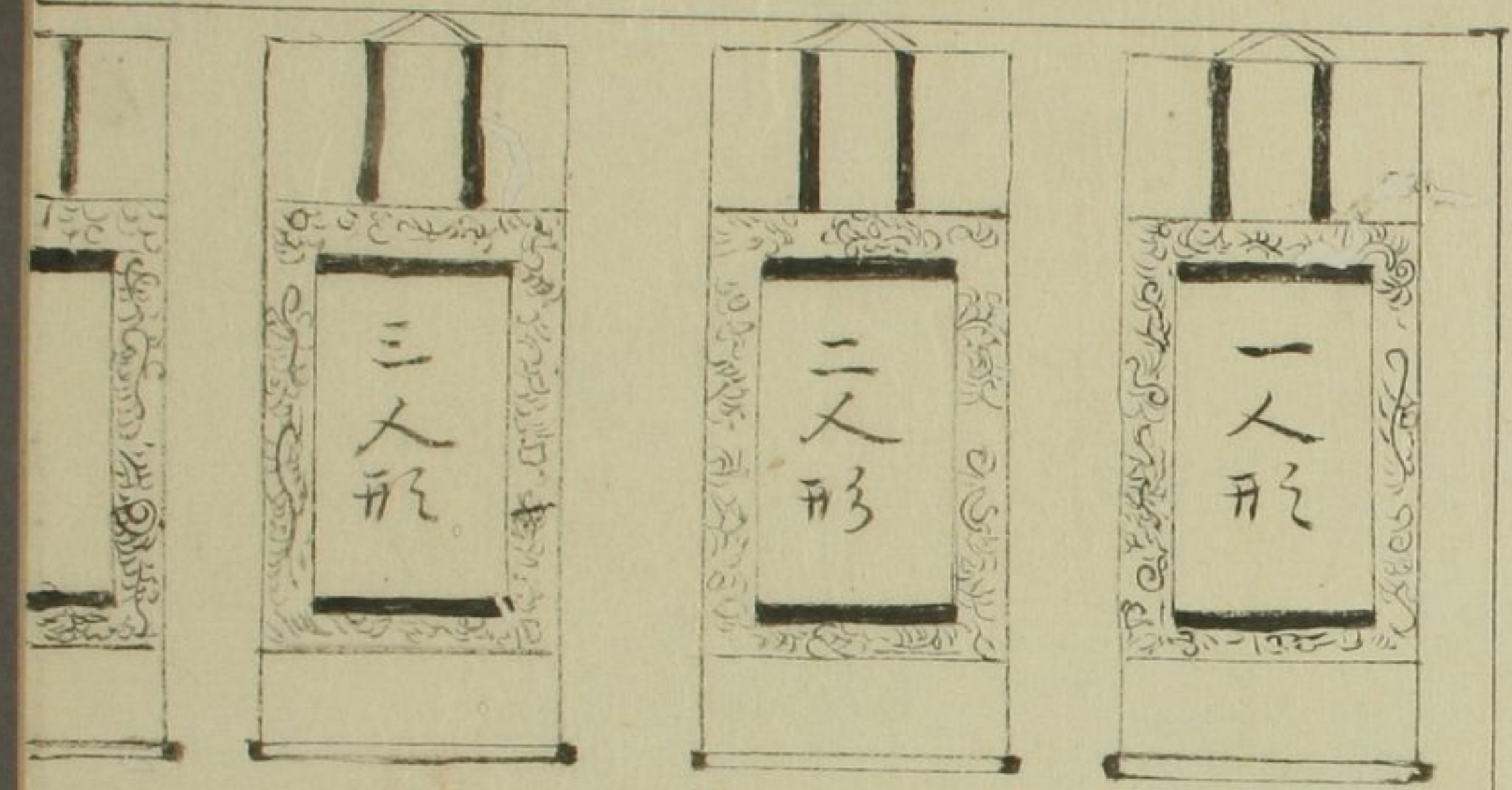
角香炉の灰ハ入るお座へ〜

一 四方角の香  
爐よりくの  
お座の中へ  
あきへはき



は卯六角八角の香炉も  
けはぬ〜

六合ニオス 八合ニオス

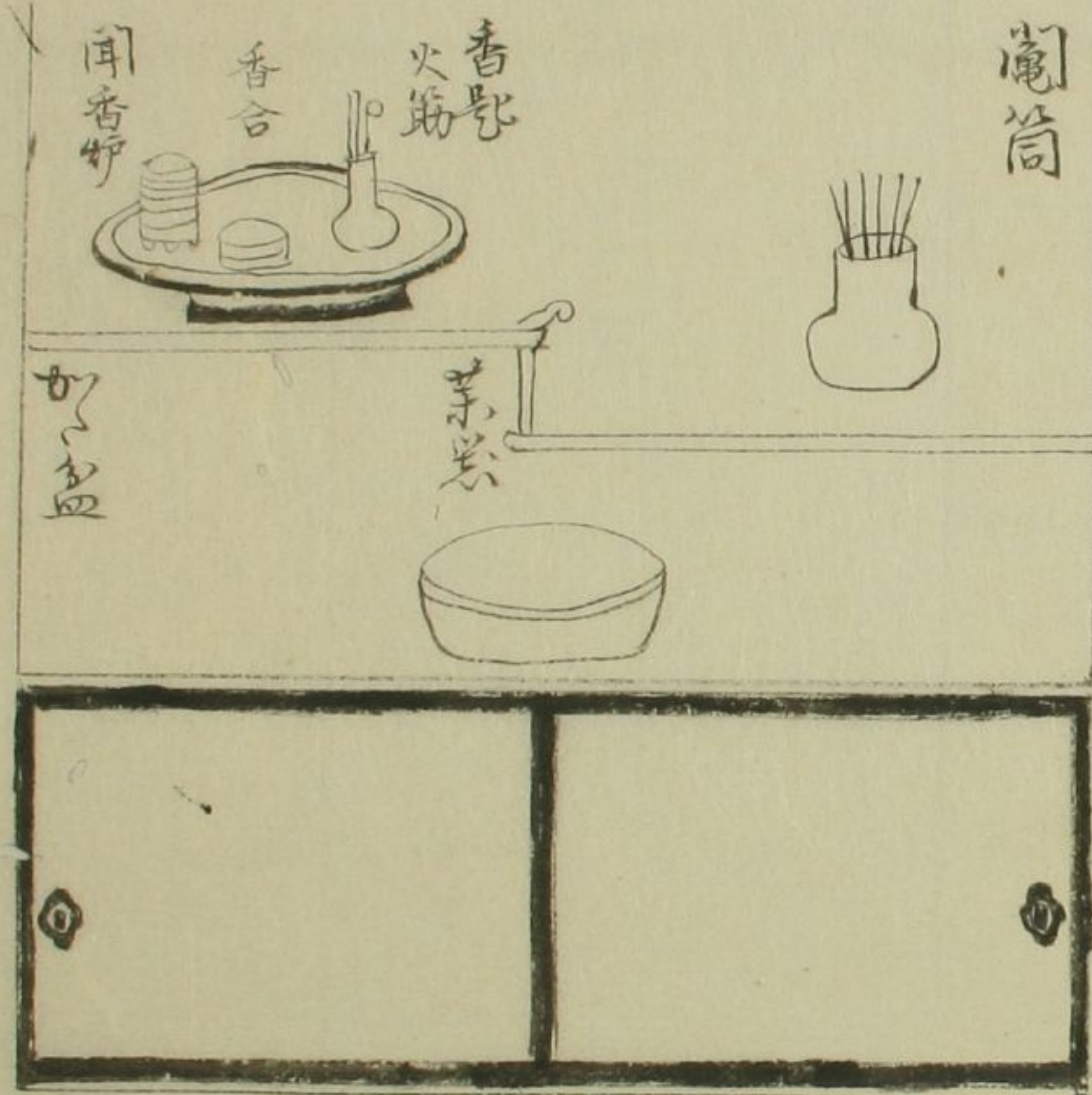


あ版一對  
花籠

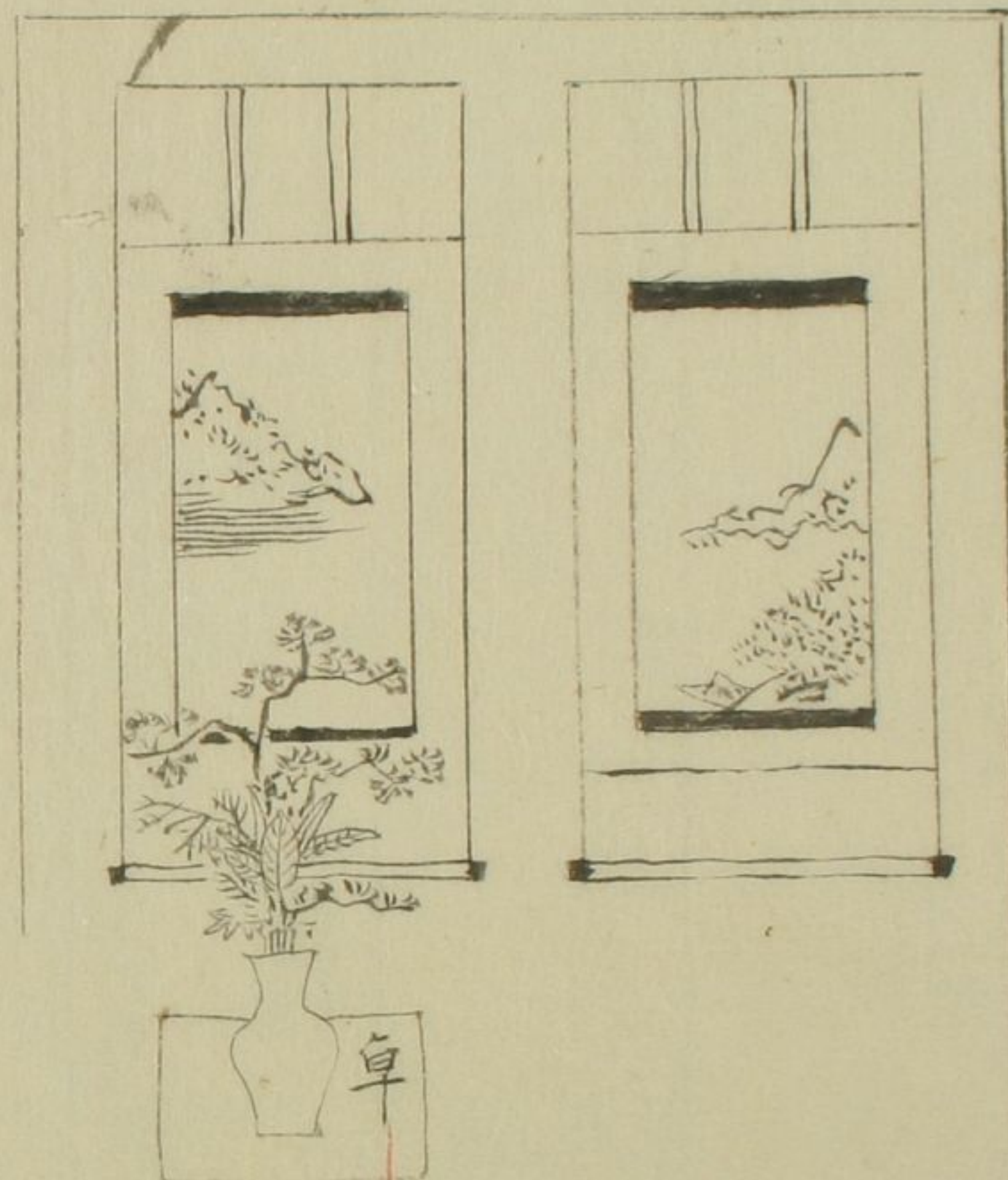
少大なるを  
花籠  
大香炉  
とも也

四幅一對の附  
ハ三具足を流  
かば籠一對花  
籠も中ハ少  
又器也ハハハ  
る花籠ハ物大  
大なる香爐あり  
其心昔ハ四幅の  
附ハ物の飾也ハ  
之もにてハ二石  
石中ハ同ハハ  
あ〜石中ハハ  
儀の〜ハハハ  
ハ〜ハハハ  
ハ香炉もハハ

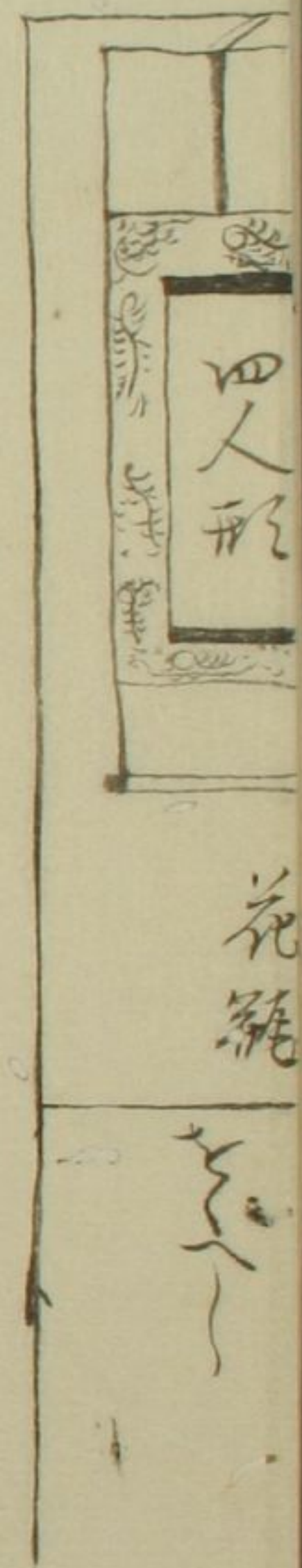
中ハ少大なる花籠  
又器也ハハハ  
ハハハハハ



香炉西乃  
 西由燈台  
 之有る  
 東字に  
 由つし  
 上の字に  
 重祝  
 と名

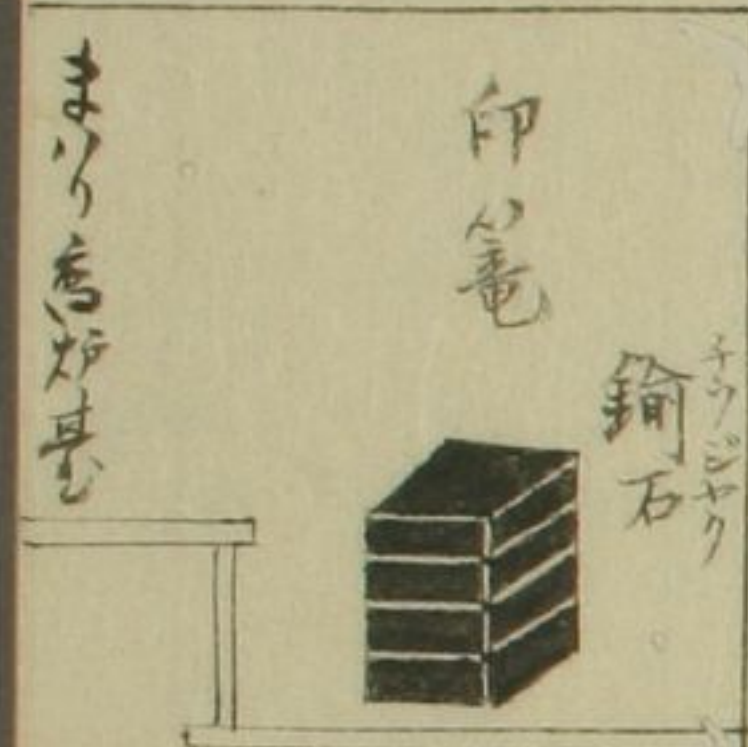


卓  
 のるも卓の  
 乃もく寸を  
 立て  
 円がと小  
 室へ一  
 東の  
 ちる二  
 るれ  
 主一  
 乃由  
 茶陽  
 柳由  
 対  
 面  
 乃の  
 次由  
 柳の  
 室由  
 柳  
 乃南  
 の端  
 に  
 有  
 良紙  
 と名  
 上  
 上  
 文  
 沈  
 有  
 名

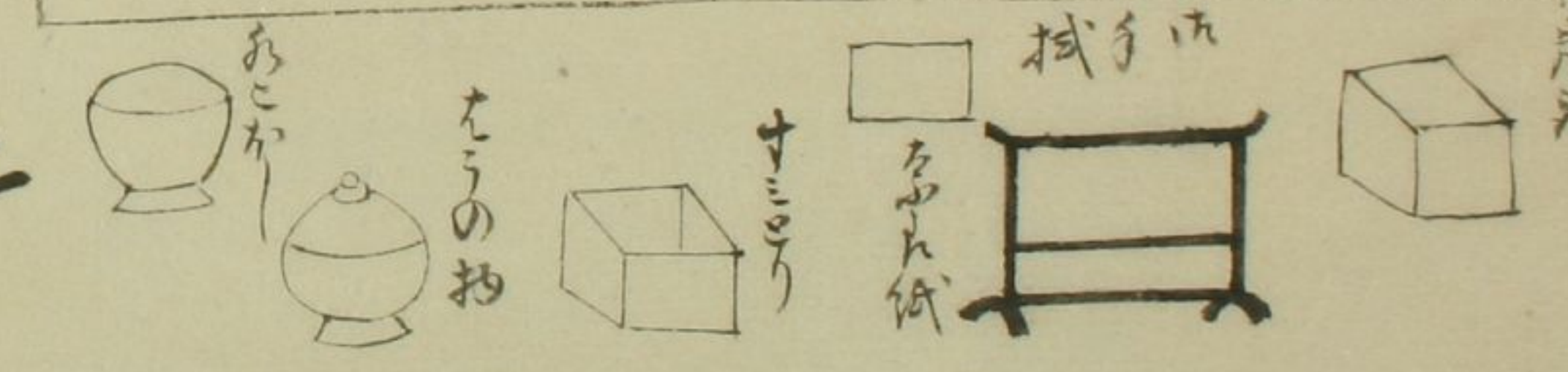
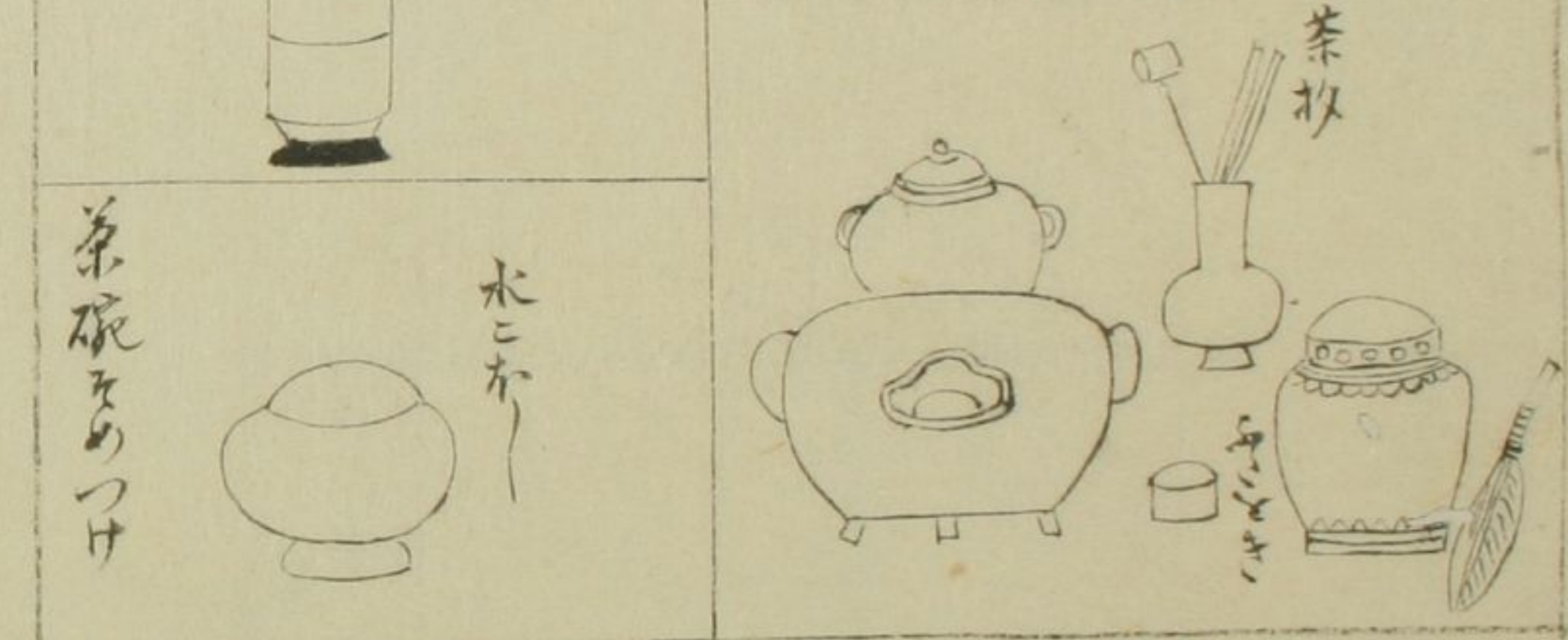
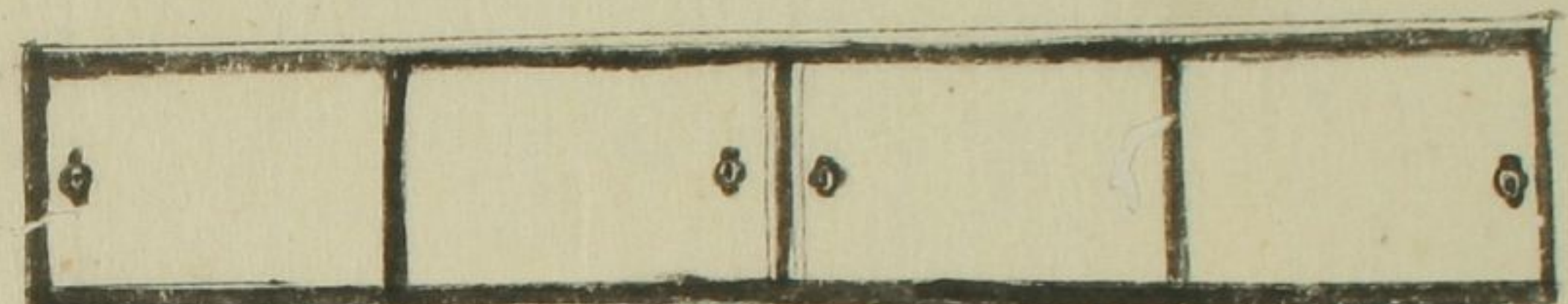


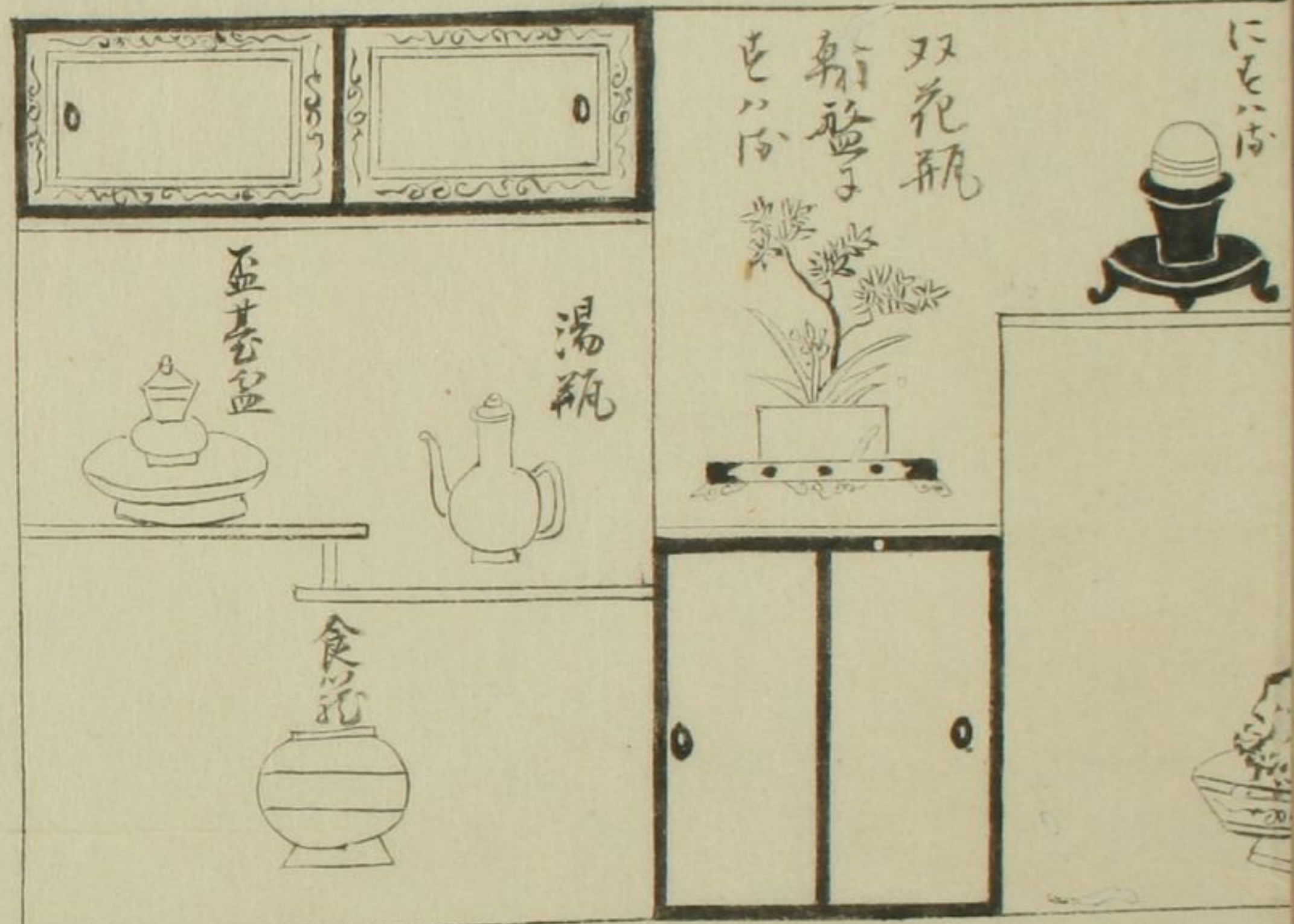
花籠

上



東の法殿の分れ  
 け川西乃法殿  
 南向水の西巻二  
 乃中の法殿に  
 押板あり此後三





湯一對常のどく  
 とつ々水三具足瓶  
 花瓶並の正し上  
 に風涼とく々瓶乃  
 おちるに瓶をなす二  
 恒安の床上に中院  
 南向す由座を西方  
 に二層の遠州あり  
 中院の在り目前  
 遠州の在り目  
 世にめんたうつき  
 に西方小泉殿有  
 うしきすまま  
 くれたふあり  
 以上西の由殿の  
 内はな也

一 东山殿法會所の九間 暖帳の弓 小東二層 押板由縁三具足 湯花瓶  
 以下考のこくし上に風涼とつ向 押板乃あり 中央此卓の堆紅  
 とつ向の上に考好 胡洞 前よかつり花の葉一とつ向 由火鉢七宝  
 瑠璃とつ々 臺よ由は向 同火箸も七宝瑠璃之月をもちて  
 向也

一 八系乃八幅四幅一對乃横縁 東向の小壁にくも也  
 一 西の二間由並物あり 夏はより小壁よ四幅一對乃縁 西東よ二幅  
 つうけらる

一 東の物乃間南よ二恒安の法座あり 一間に中此由中院を由  
 飾考のこくし 同東方一層の由邊 柳を由飾ハ小川の由前乃と  
 集六これも四幅由縁くる 東西の小壁にくも 物の新きやハ

李安忠の唐絵四幅一對の唐也

同小のきつくしの唐の西小乃一乃には遠柳と名は唐櫃也を

上小の登子小絵二幅小横絵二幅の唐也唐柳の並物也唐障子の

絵秋乃菊花ませがきを中は同小の石山の唐小東一乃の中

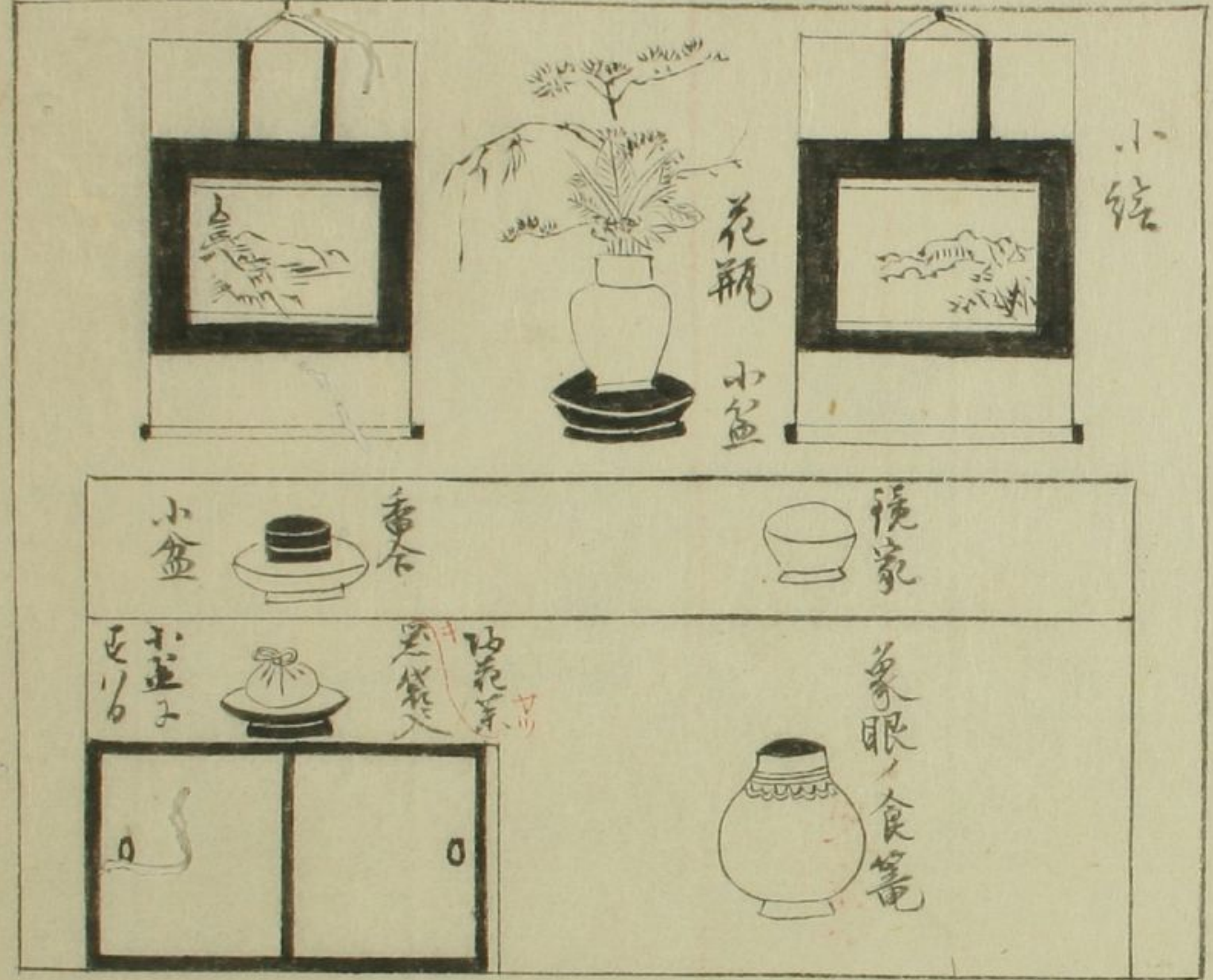
唐屏あり上に押板唐絵二具是唐のこし東より中は遠柳

あり唐並物也唐障子絵石山勢多大伴もてあり同小の石山

の唐小東一乃の中一の唐屏あり上に押板唐絵二具是唐の

こし東のま中よ遠柳あり

は分南



小絵

花瓶 小盆

小盒

香合

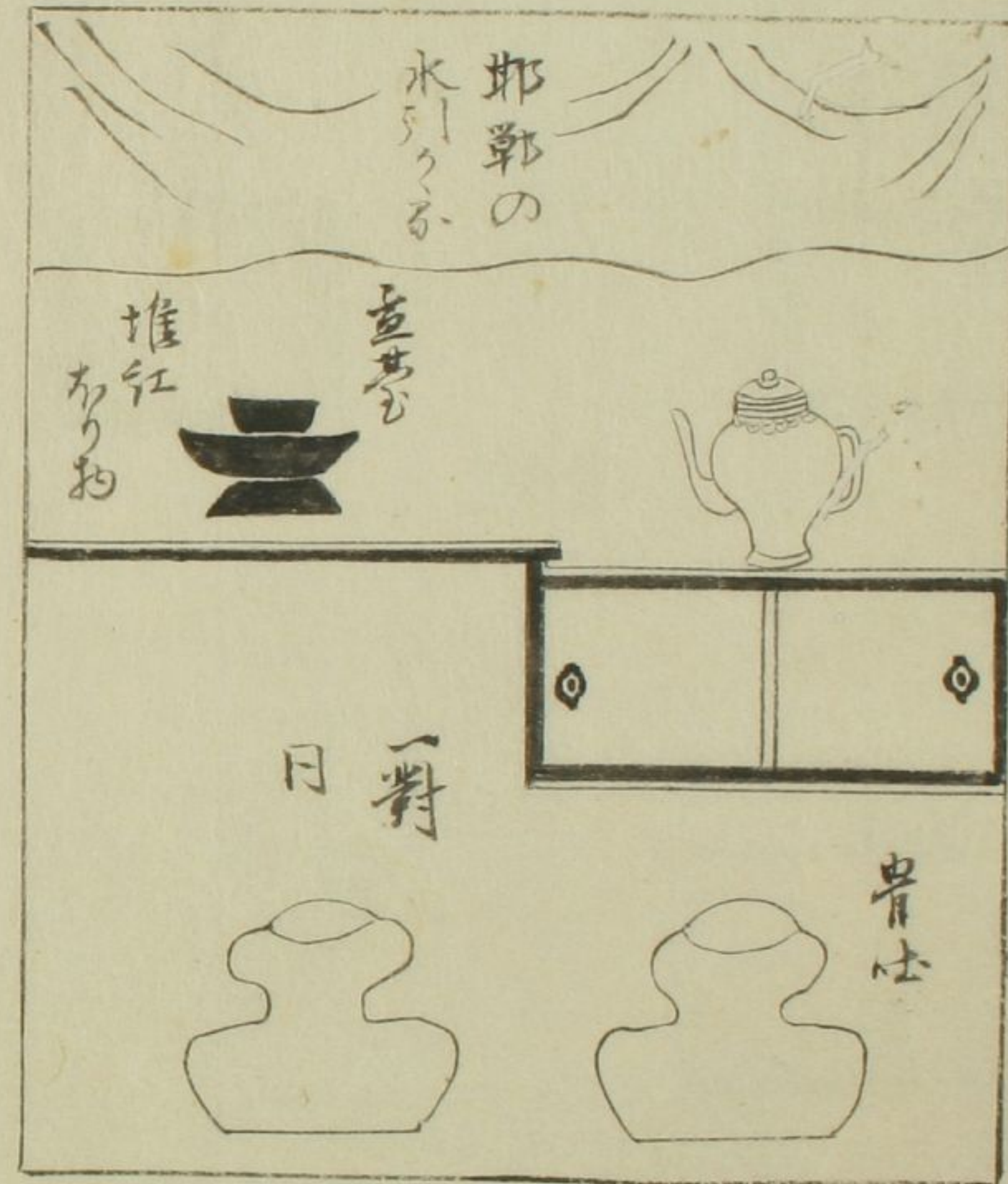
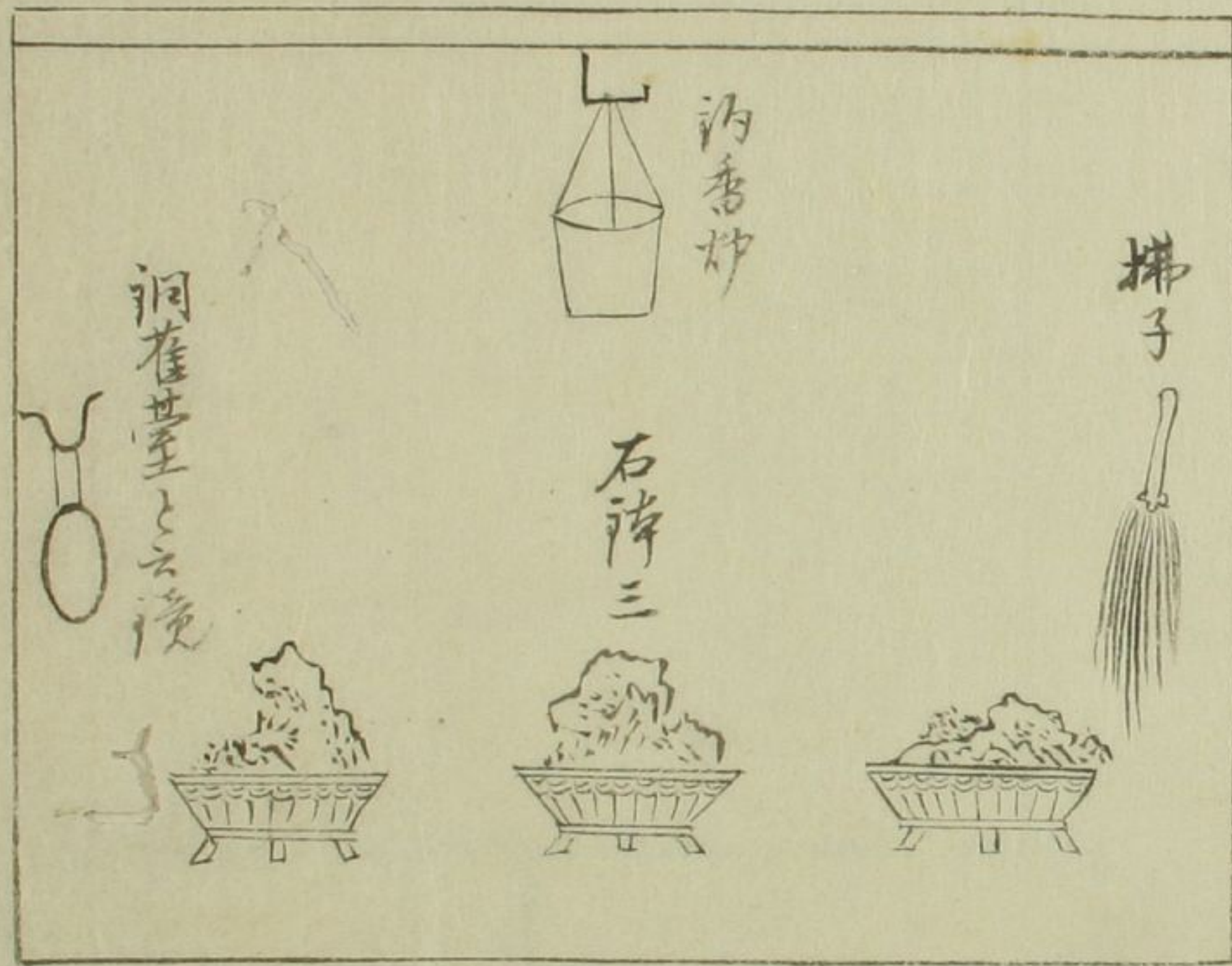
鏡家

唐櫃

小盆

唐櫃

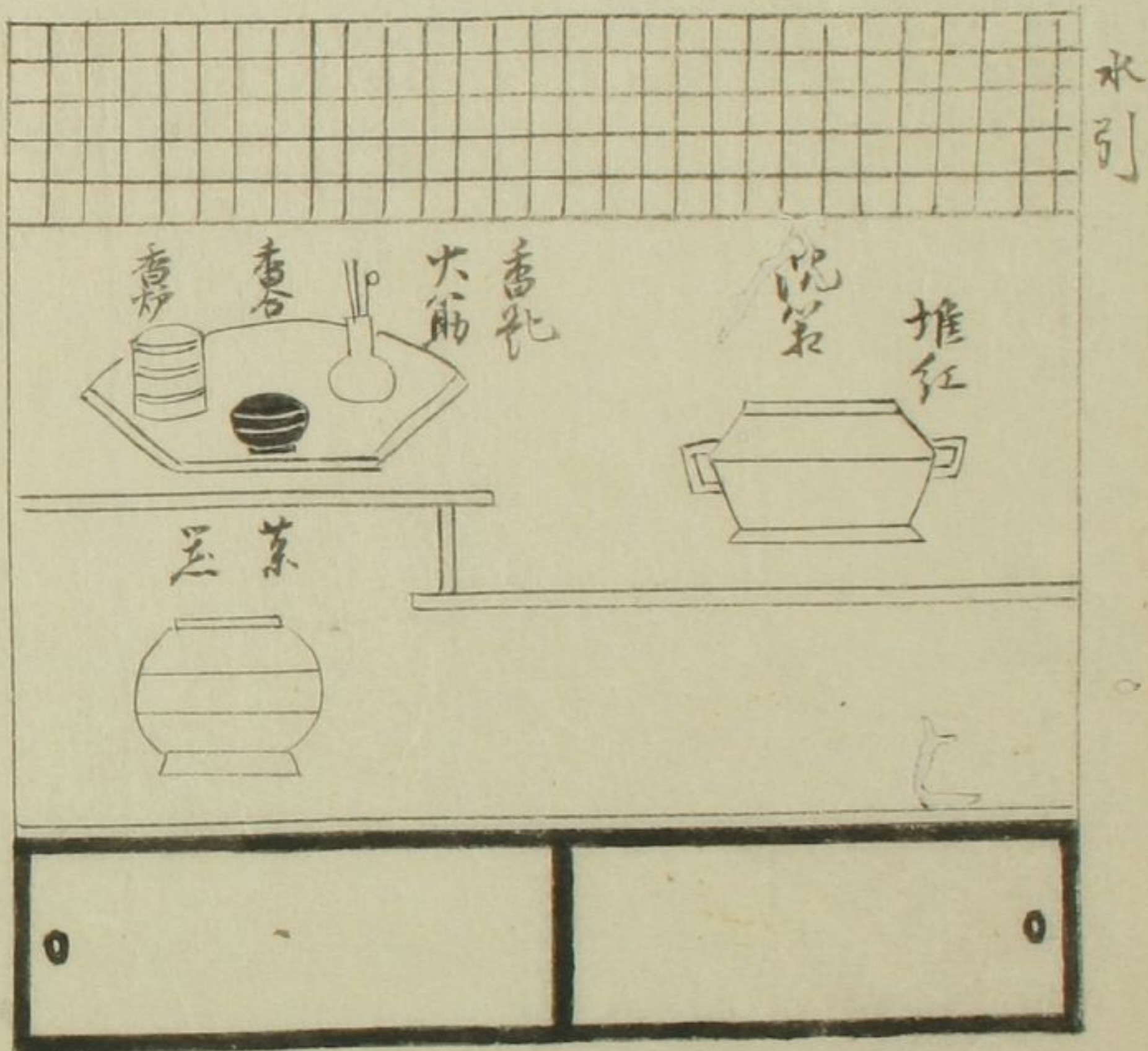
象眼の食籠



浄遠棚をわび



西カ  
 日比面の透納戸一開戸中かき障子二まいいふ一障子二幅



まてもえぎの紋紗あてまき水引糸此赤地障子の帳つうを  
 あま小向中の戸中れ透棚乃上に油乃をあり二枚障子具  
 の板あてまき水引糸あてまき水引糸のこしし水引糸の縁ハるをやり  
 乃花を金箱まおある

一 押板のより糸ハ四分一つかをあてまき押板より上ハ一尺七八寸  
 ときてまき

一 床よたひまは枕と座箱とをもま也

一 同右に方盆と調香炉同香炉火筋並て飾るありあり

一 二具並ときたの乃乃事あり

一 透棚よあまは調香炉をもまあり

香炉盆



名うにをさきたりともかく  
のしく盆へし

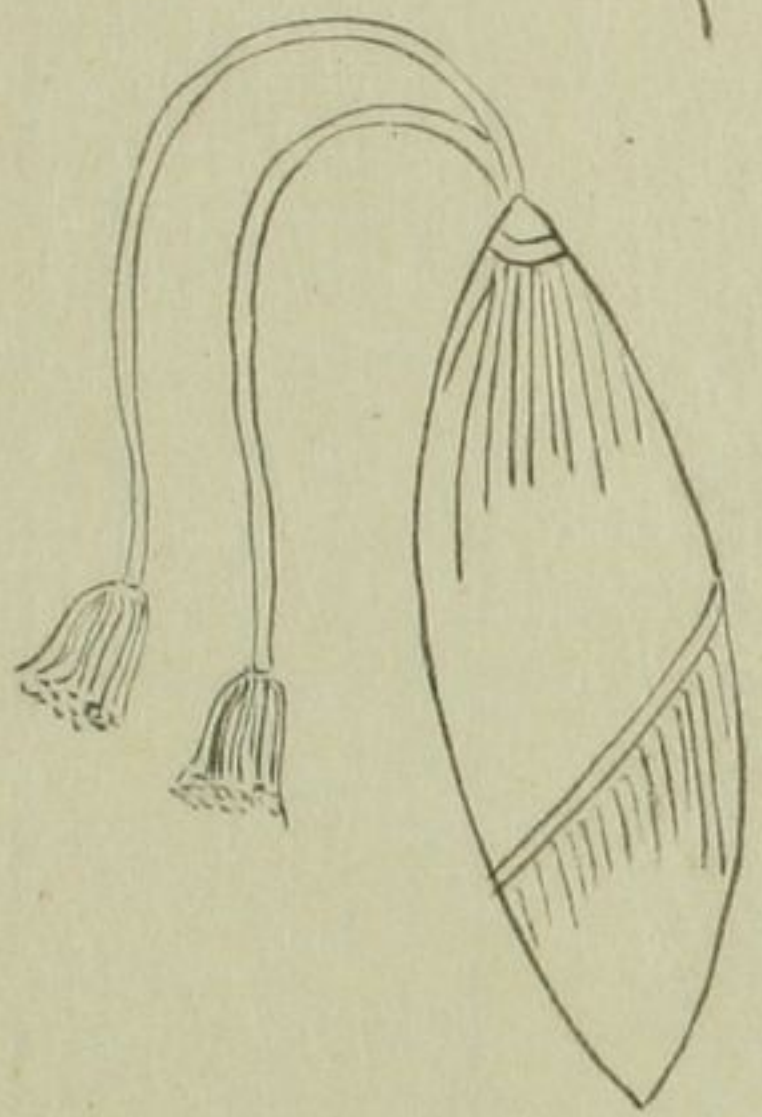
一 有り物と志する曲く香炉の臺小浪少くも<sup>ナウニヤク</sup> 諭<sup>ナウニヤク</sup> 派少くも志す

一 中央卓より上へは香炉をくハいろやうに香炉をも盆へし香  
合も同す

一 同中後二幅一對乃結を掛又押板をくあは二幅一對も  
けし

一 唐物の唐火鉢の臺ハ何も唐花也縁ハ大畧黒綿子也东山  
殿大名より志するハ亦少くあはれを馬也

かりろく



一 かりろくとして柱うりあり

一 東山殿唐火くきの柄とせられり物ハうんふといふ唐亦衣  
袋の志すとのみ物の事也

美術書肆  
柏林社書店  
東京都文京区森川町2  
電話 (811) 5445

右一巻者惠林院藏義植公之序為三卷殘注並能也

據序文有他見作於以上口傳類也

大永三年十一月日

相阿弥序  
鑑岳真相

相阿弥氏ハ中尾ト云名示ハ真相ト云鑑岳ト称シ松雪亦ト号又父ハ藝阿弥  
祖父ハ能阿弥名示ハ真相能春鷗亦ト号又何レモ足利殿ノ同明ナリ

壬午十月十三日

右一巻者乃以鑑岳公傳寫下不為  
法也一也鑑岳也

任職万助

大化三年丙寅十月廿五日

貞春

長谷川景隆

